

# リウマチだより

VOL.2 クリニック版 2023年2月1日発行



リウマチ科みやもと 院長 宮本茂輝

〒526-0034 滋賀県長浜市弥高町 269 番

TEL : (0749)53-3887 / FAX : (0749)53-3877

URL : <https://rheumatoid-arthritis-miyamoto.jp>



↑  
ホームページは  
こちらから

## リウマチ豆知識



### 【CRP・赤沈・MMP-3 が正常なら、関節リウマチ (RA) の状態は良いのか？】

上記の質問に対して、「Yes」と返答される先生が大半を占めると思います。また、日常診療の中で、患者さんにそのように説明されているケースがほとんどかと思えます。

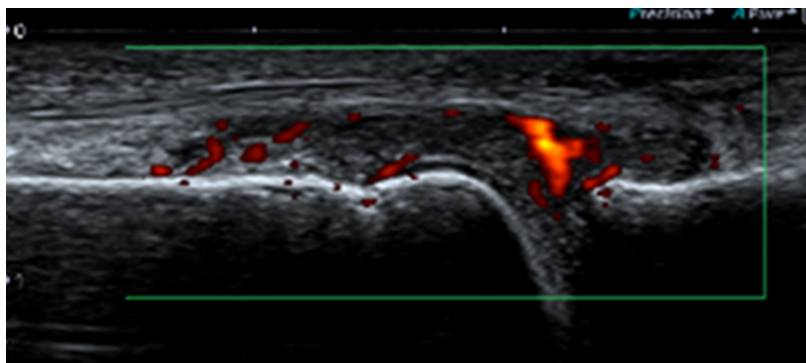
これはおそらく、『RA は関節の炎症を呈する疾患であるから、炎症マーカーが正常であれば、RA の状態は良いに違いない』という判断に基づくものでしょう。

しかし、ここには大きな落とし穴があります。RA では手指・手・足趾の関節に 80%以上で病変を認めますが、これら小さな関節に炎症があっても、CRP・赤沈・MMP-3 は全く正常か、軽度の上昇に留まるといことです。つまり、これらのマーカーだけで RA の状態を評価すると、炎症が残存しているにも関わらず、『RA の状態は良い』と誤った判断をしてしまい、結果的に関節破壊の進行を招く恐れがあります。

では、RA の状態を正しく評価するにはどうすればいいのでしょうか？

RA は関節包を裏打ちしている『滑膜』に炎症をきたす疾患です。関節滑膜炎があれば、関節滑膜が肥厚し、その結果として関節が腫れます。つまり、関節滑膜炎の傍証としての『関節の腫れ』を触診でしっかり捉えることが第 1 のステップであり、RA 診療において触診が最も重要な診察であることの理由です。

一方で、触診にも限界があります。浮腫がある場合や、関節が深部にある場合には、関節腫脹があるのかどうかを判断することは困難です。そのような場合には、適宜関節エコーを使用し、関節滑膜炎の有無を評価します。



CRP・赤沈・MMP-3 が正常にも関わらず、関節の痛みが持続している患者さんがおられたら、もしかすると関節滑膜炎が残存しているのかもしれません。

繰り返しになりますが、関節滑膜炎を正しく評価するためには、しっかり触診(痛みがなくとも滑膜炎が存在することがあるため、必ず痛みのない関節も

含めて)をし、適宜関節エコーを用いることが重要です。RA 診療には時間を要しますが、そこまでして初めて、RA の活動性を正しく評価していると言えるのです。 (裏面へ)



## 🍊 看護師さん向けの講演会を行いました(12/17) 🍊

病院勤務の看護師さんの場合、院内の様々な勉強会があるため、知識を確認あるいは習得する機会に比較的恵まれています。一方、クリニック勤務の場合、そのような機会は皆無に等しく、『学びたいのに学べない』という事態が生じます。そのような方を対象に、我々が何かお手伝いできることはないのか？ということコンセプトに、看護師さん向けのリウマチ勉強会を始めました。第1回目は、あるクリニックから2名の看護師さんに参加いただきました。今後は、病院勤務の看護師さんへも対象を拡大し、定期的を開催する予定です。



## ☕ 第2弾！薬剤師さん向けの院内講演会を行いました(1/7) 🇯🇵

昨年の11/26に続いての第2弾です。今回は、ある薬局さんから3名の薬剤師さんに参加いただきました。講演内容は前回とほぼ同様ですが、『RA診療において地域の薬剤師さんが果たせる役割とは何か？』という部分を問いかけてみました。抗リウマチ薬には様々な副作用があり、時に生命に関わるような重篤な副作用が生じます。その発現そのものをゼロにすることはできませんが、早期に発見し、早期に対応することで、そのリスクを下げることはできます。薬剤師さんが、その一端を担える（場合によっては、ゴールキーパーかもしれません）はずですし、これからもそのお手伝いができるよう次回以降の企画を練っていきます。



講演を希望される方は、本ページ下記のメールアドレスまでご連絡ください

## ☎ 当院では電話での病状確認をしています 📞

抗リウマチ薬投与中には、常にその副作用に注意が必要です。抗リウマチ薬には免疫抑制作用を有するものが多いため、感染症には最も注意が必要ですが、それ以外にも間質性肺炎やリンパ増殖性疾患、口内炎（メトトレキサートでは重篤な血球減少の前兆として口内炎が出現することが多いです）などにも留意する必要があります。

当院では新規に薬剤を開始した方や病状の不安定な方を対象に、看護師から電話での病状確認を行っております。安全面をなおざりにしているようでは、真の意味で「患者さんを診る」ということにはならないと考えるからです。



リウマチ・膠原病診療に  
関するあれこれ・・・



★メールでの相談をお受け致します！★

「これぐらいの症状で病院に紹介するのは、何となく気が引けて・・・」「抗核抗体測定したら高かったけれど、どうしたらいいの？」「抗核抗体正常の場合、膠原病じゃないって説明しちゃうの？」

このように、日々の診療でお困りのことはございませんか？気軽にメールで相談いただければと思います。少しでも皆様の日常診療のお手伝いできれば幸いです。

メールアドレス：consul@rheumatoid-arthritis-miyamoto.jp



←メールはこちらから